

私の放送作家としてのキャリアを知っている佐世保南高時代からの友人たちと、「ふるさとの子供も大人も一緒に笑って、元気になるようなことをやろう」ということで、平成22年に立ち上げたのが、「佐世保かっちえて落語会」です。私たちの会は代理店やイベント業者とは一切関係なく、手伝ってくれている誰もが“志”を手弁当に詰めて、無償で動いてくれている落語会なのです。ちなみに「かっちえて」とは、地元の方言で「仲間に入れて」という意味です。

この落語会には、他の落語会とはちがった大きな特徴があります。それは前座として、佐世保の子供たちが、佐世保オリジナルの創作落語を披露することです。古典落語を短く覚えやすくして演じる子供落語の会は、他の所でも行われているようですが、地元の地名や方言を多用した創作落語を、地元の子供たちが演じる落語会は、佐世保初にして全国でも珍しい試みだと思えます。

なぜ「子供たちに創作落語を演らせたい」と思ったかといいますと、何年前かに佐世保で起こった、子供同士による悲しくも辛い事件を知ったからであり、あれ以来、ふるさとの子供たちのために、何か自分にできることはないのか・・・自分はふるさとを離れて30年以上、東京や大阪で主に「笑い」の台本や脚本を書いてきたけど、ふるさとの子供たちが「笑い」を通して仲良くなったり、元気になったり、自信をもてるような場を作れないものか・・・台本料や稽古料は受け取らずに、学校の授業や塾とは関係なく、たとえば、「落語寺子屋」のような雰囲気であればいいだろうな、と考えたからであります。

しかも放送作家であるプロの私がやるからには、顔や名前を知っていると知らないに関わらず、本格派としての実力と心根の良さを兼ね揃えた師匠方に来ていただき、子供たちと共演してもらい、そのトップクラスの人たちの落語（話芸）を佐世保のお客さまたちに、それも生の高座は初めてのような人でも入りやすい料金で、「本格派の落語」を堪能していただきたいと考えたのです。

落語はご存知のように、江戸の頃から続いている日本ならではの話芸ですし、演じる側は元より聞く方も、感性や想像力、知性や教養や人生経験が豊かであればあるほど、より楽しむことができる奥の深い芸能です。落語からは日本語の面白さや豊かさ、多様性などを笑いながらも学ぶことができます。

特にこれからの社会を担う子供たちにとって、ネットやラインに翻弄されている子供たちにとって、「言葉を大切にす落語の面白さ」を知っておくことは必要ではないだろうか。CDなどで聞くことはもちろんのこと、実際に会場で落語のライブを見ること聞くこと、さらには自分が演じるその〈体験〉、そのときに〈感じること〉は、いまの子供たちにこそ必要な経験ではないだろうか。

こうした考えに共感してくれた人たちが集めてくれた子供たちに、私が書いたオリジナル台本を渡し、稽古を重ねて、主に高校時代の同級生たちの協力により平成22年の8月に第一回「佐世保かっちえて落語会」を開催いたしました。私たちの考えに賛同していただき、いままでにお越しいただいた師匠方と演目の一覧表は、このHPのなかに記載してありますのでご参照ください。

私たちは日々の暮らしのなか、職場や学校や家庭において、時に閉塞感を感じたり、気持ちが落ち込むこともあります。そういう時にこそ「落語的な笑い」は必要ではないでしょうか。皆さん！そういう閉塞感や落ち込んだ気持ちは、笑って吹き飛ばそうではありませんか。もちろん落語には、笑いだけではなく、私たちが忘れかけている人情の尊さを思い出させてくれる噺もありますし、聞いているうちに胸が熱くなり、目頭までも熱くなるような噺もあります。

皆さんもぜひ一度、私たちの「佐世保かっちえて落語会」にいらしてください。見聞できる機会の少ない本格派の落語を堪能すると同時に、佐世保初の試みに挑戦している子供たちを応援し、励ましてあげてください。お願いいたします。